

幼児の 母



昭和十五年

三月

幼稚園の必要

東京女子高等師範學校長 下村 壽 一

子どもは、小學校に入學する前から、心と身體とを充分よく育てられてゐなければなりません。それには家庭に於ける母の行き届いた注意が肝要なことは言ふまでもありませんが、そればかりでは足りない點があります。その家庭教育を補ふのが幼稚園であつて、幼児のため最も必要なものであります。

我國の教育のことを審議する最高機關である教育審議會でも、幼稚園に關する要綱につき慎重に審議せられ、それを總

理大臣に答申せられました。私もその委員の一人であります。幼稚園の必要は、國家の教育制度の上に於て強く認められることでありませぬ。

今や此の重大な時局下にあつて、次代の國民たる幼児の保育は、國家のため一日も怠つてはなりません。私は、皆さんの大切なお子さんが、家庭と幼稚園との協力によつて、強き健康に、良き躰に、立派な國民となる基礎を、しっかりと得られることを祈つて已みませぬ。

三月・四月

母の友

三月・四月。母の心の嬉しくも忙しく、忙しくも嬉しい月です。母としては此の月こそ、せつきとお正月のやうなものでせう。我子の入園入學、我子の進級卒業。子ども當人よりも母の胸が喜びに一杯いです。我子の入園を初めて迎へる心にしても、我子の保育終了を初めて祝ふ心にしても、こゝまで健かに生ひ立つた我子に禮が言ひたい程の、のぼせるような頬に、それこそ母の嬉し涙です。

その朝は、何はなくとも、お赤飯でも祝ひませうよ。その夕は、どんな忙しいお父さんにも家にゐて貰つて、我子の入園入學の祝ひなませうよ。おぢい様、おばあ様にも、勿論是非ごいつしよに。まことに、家の内も外も明るい春です。ね。